

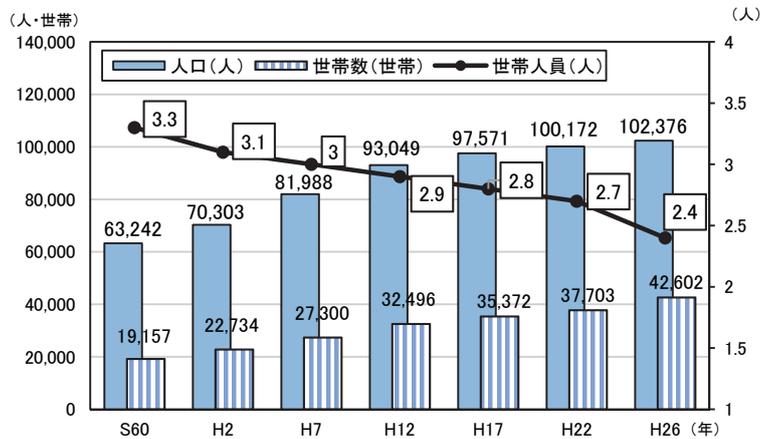
第2章

筑紫野市の現状

第2章 筑紫野市の現状

(1)人口（世帯数）の推移

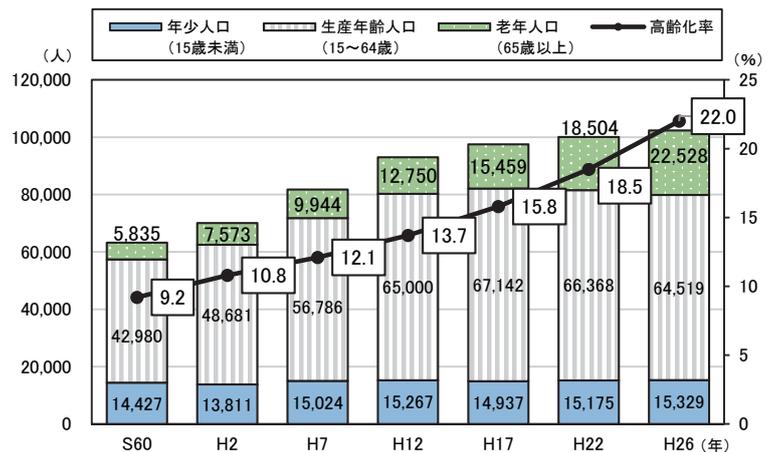
本市の人口は、昭和60年の63,242人から平成26年の102,376人と30年間で約39,000人増加しています。世帯数は19,157世帯から42,602世帯と増加している一方、1世帯あたりの世帯人員は昭和60年の3.3人から平成26年の2.4人と減少し、世帯の小規模化が進んでいることがうかがえます。



【出典：国勢調査、H26年度は参考値(H27年3月末の筑紫野市住民基本台帳)】

年齢3区分別人口の推移を見ると、「年少人口（15歳未満）」、「生産年齢人口（15～64歳）」の占める割合は減少傾向です。

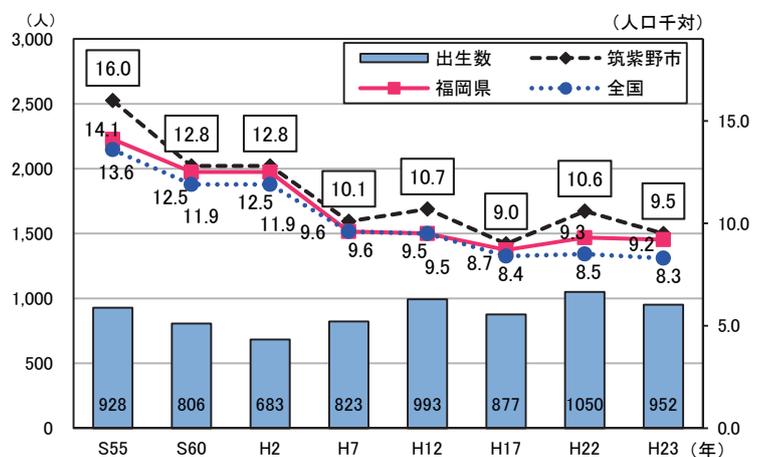
一方、「老年人口（65歳以上）」は増加しており、高齢化率は平成26年で22.0%です。



【出典：国勢調査、H26年度は参考値(H27年3月末の筑紫野市住民基本台帳)】

(2)出生数と出生率の推移

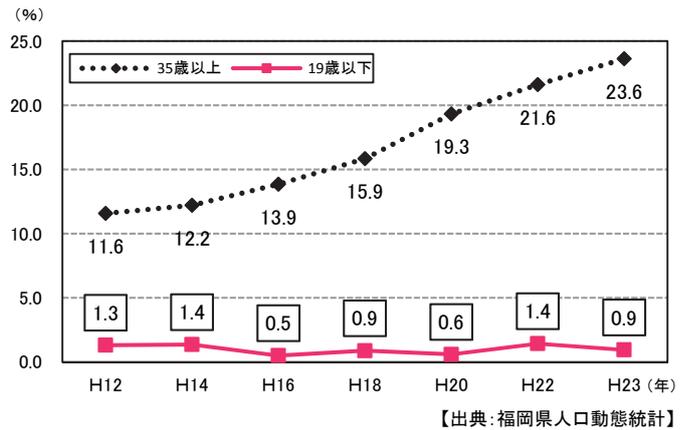
本市の出生数については、800～1,000人程度で推移し、出生率（人口千対）は、国・県より高い状況ですが、昭和55年の16.0%から、平成23年には9.5%まで低下しています。



【出典：厚生労働省人口動態統計】

(3) 母親の年齢別出生割合

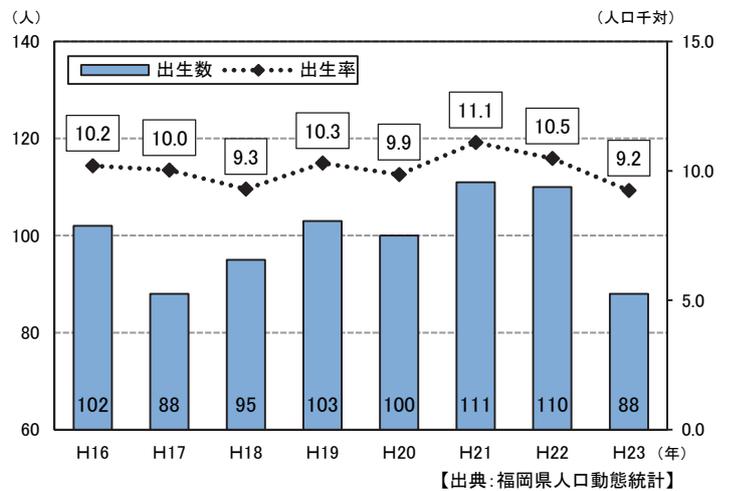
本市の母親の年齢別出生割合については、35歳以上の高齢出産が平成12年は11.6%でしたが、平成23年は23.6%となり、この10年でおよそ2倍になっています。一方で、若年出産(19歳以下)も1%前後あります。



(4) 低出生体重児(2,500g未満)の出生数

本市の低出生体重児(2,500g未満)の出生数は100人程度です。

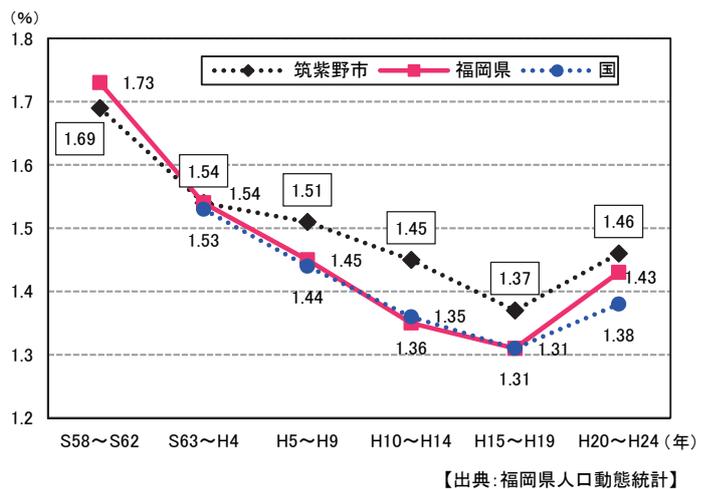
その割合については、平成23年において9.2%です。



(5) 合計特殊出生率※の推移

本市の合計特殊出生率については、平成15～19年にかけて1.37%まで低下しましたが、平成20～24年は1.46%に増加し、国・県も同様の傾向になっています。国・県と比較して高く推移していますが、人口維持に必要な2.07%には届いていません。

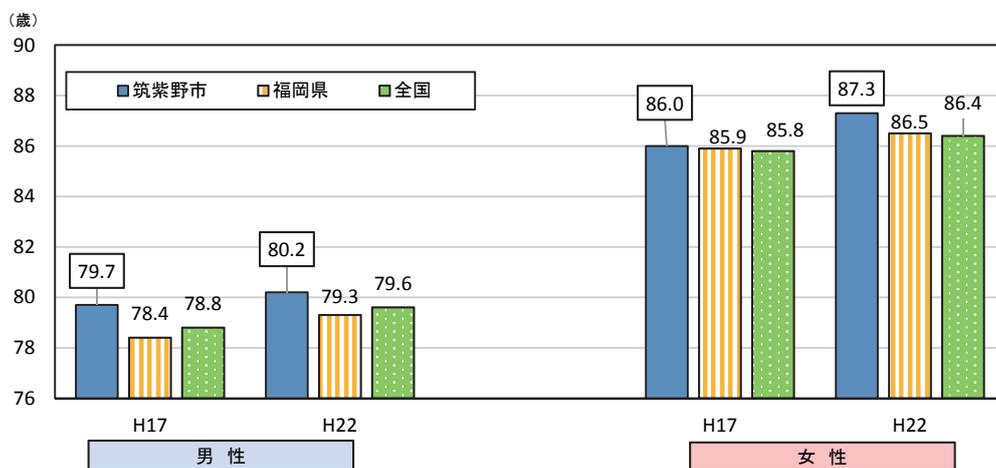
(注)規模が小さい(出生数が少ない)自治体で、単年で算出すると、年度間の変動によって数値が不安定になるため、市町村の合計特殊出生率については、5年分の出生数をもとに加味した値で算出している。



(6)平均寿命と健康寿命

■平均寿命*

本市の平均寿命については、平成22年で男性80.2歳、女性87.3歳となっており、男女ともに延びています。



【出典：国保データベースシステム(生命表)】

■健康寿命*

本市の健康寿命については、男性79.73歳、女性84.35歳でともに国・県に比べて高くなっています。

単位：歳

筑紫野市		福岡県		全国	
男	女	男	女	男	女
79.73	84.35	78.00	83.38	78.17	83.16

【出典：福岡県健康増進計画】

<健康寿命の取り扱いについて>

健康寿命は算定に使う基礎情報によって異なる数値となるため、参考の数値としてみていくことにします。

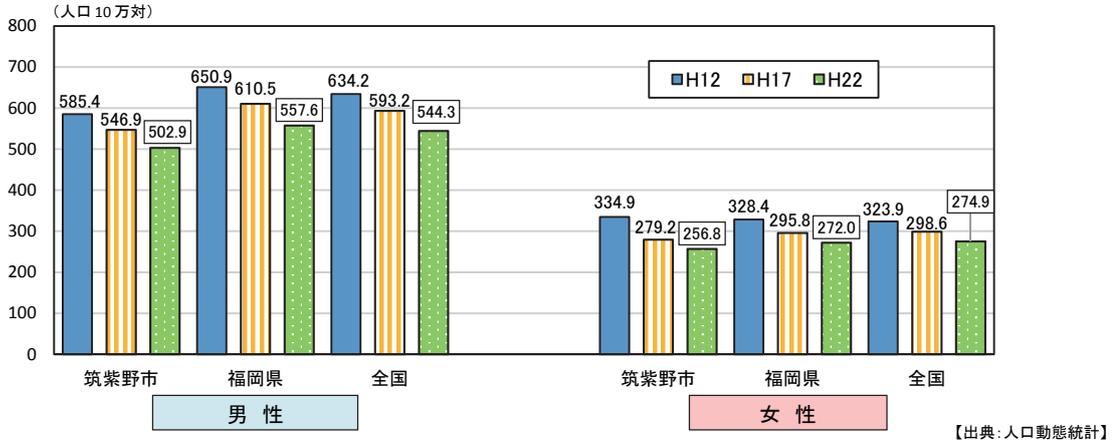
コラム ～健康寿命を延ばしましょう～

健康寿命とは、日常生活が制限されることなく生活できる期間のことです。そのため、平均寿命と健康寿命の差は、日常生活に支障がある不健康な期間（介護期間）を指します。生涯にわたっていきいきと健やかな生活を送るためには、健康寿命を延ばすことがとても重要です。



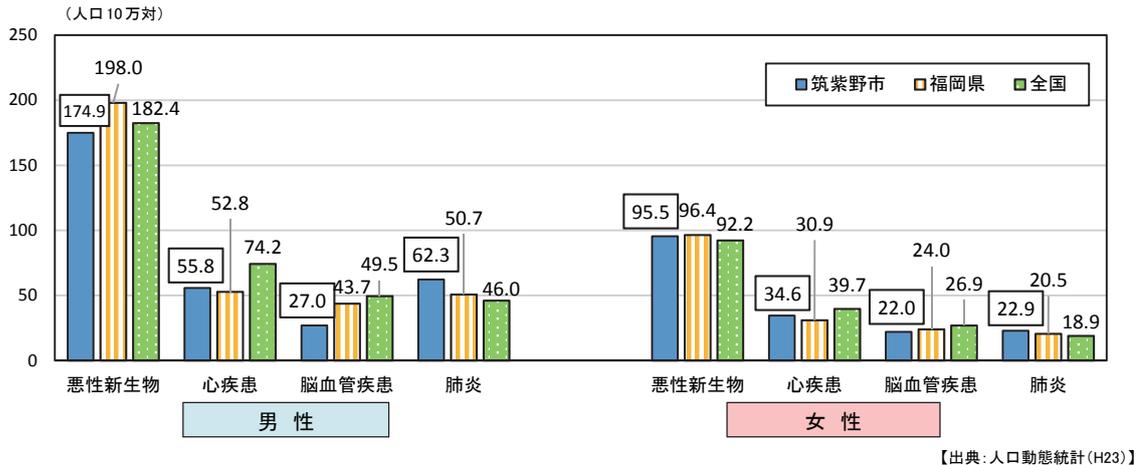
(7) 年齢調整死亡率の推移

本市の年齢調整死亡率*については、男女ともに年々低下し、国・県より低くなっています。



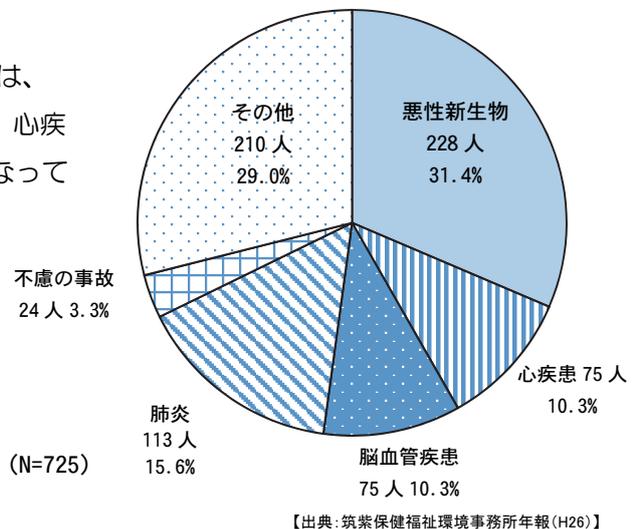
(8) 主要死因別死亡率

本市の平成23年の主要死因別死亡率については、「悪性新生物(がん)」が最も多く、男女ともに「肺炎」が国・県より高くなっています。



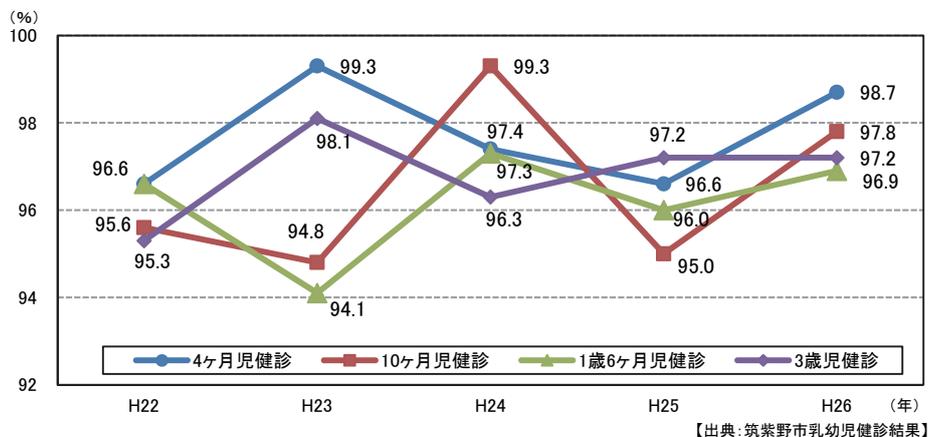
(9) 主要死因の割合

本市の平成23年の主要死因割合については、悪性新生物が31.4%と第1位になっており、心疾患と脳血管疾患を合わせた割合は20.6%となっています。



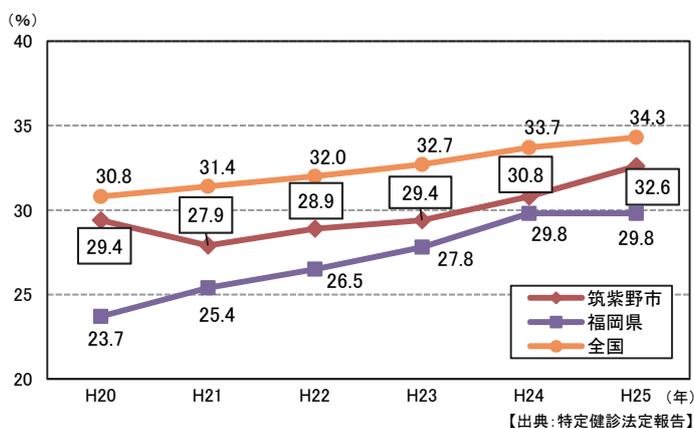
(10) 乳幼児健康診査の状況

本市の平成26年の乳幼児健康診査受診率は、各年齢において96%以上と高い状況です。



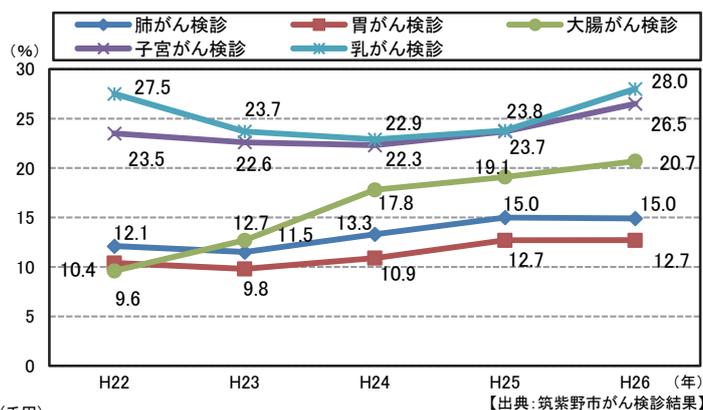
(11) 特定健康診査の状況

本市の平成25年の特定健康診査実施率については32.6%であり、平成20年以降徐々に増加傾向にあります。



(12) がん検診の状況

本市のがん検診の受診率については、増加傾向にあり、特に大腸がん検診の受診率が伸びています。



(13) 医療費の状況

本市の国民健康保険加入者の一人当たり医療費（一般医療費）の年次推移については、平成20年291,000円から平成24年338,000円に増加しています。

